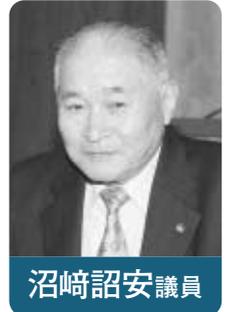




厳しい状況の中、行財政改革を軸に財政運営の健全化が進められています



沼崎詔安議員

## 財政問題

# 行政コストを最重要視せよ

## 身の丈にあった財政運営を進める

**質問** 歳入の伸び悩みが続く中、義務的経費の増大が財政を硬直化させており、

抜本策を講じないと今後の行政施策の展開に支障を来す。英知を集め窮地からの脱出を図ることが最重要課題であると思うが、町長の考えは。

財政の弾力性を知る数値に経常収支比率があるが、

本町の数値は。また、経常的経費の圧縮策は。

**沼崎町長** 県内市町村の平成十七年度当初予算規模は、半数以上が前年度を下回っており、厳しい状況にある。この要因は、国の三位一体の改革による地方交付税の減額が大きく影響したものと考えられる。

町の対応策としては、行

### ことば…経常収支比率

人件費や、扶助費、公債費などのように容易に縮減できない経常的経費に対し、地方交付税や町税などの経常的一般財源収入がどの程度消費されているかを表わす指標です。この比率が低いほど、経常的経費に充てた残余が大きく、臨時的財政需要（主に普通建設事業）に対して余裕を持つことになり、財政構造が弾力的であることを示します。

## 町の考えを聞く

政改革大綱に基づく徹底した経費節減と適正な負担で、身の丈にあった財政運営を進めることである。

平成十六年度の経常収支比率は、八五・八割と見込んでいる。  
経常的経費の圧縮策としては、これまで人件費をはじめ物件費や扶助費、補助費などを見直ししてきた。今後も引き続き行財政改革を軸に財政運営の健全化に努めていく。

### 介護保険

## 主役は「財政」か「利用者」か 財政と利用者は表裏一体のもの

**質問** 介護保険制度の見直しの基本的考えは、「制度の持続可能性」「明るく活力ある超高齢社会の構築」「社会保障の総合化」の三点。

制度維持の最大の課題は、膨張一途の介護費用に対し、いかに財源を確保し財政を安定させるかであると考えられるが、主役となるのは「財政」か「利用者」か。

**沼崎町長** 現在、第三期介護保険事業計画の策定の準備を進めているが、国の介護保険制度改正の具体的

方策は不透明な部分もある。二〇一五年がピークといわれる超高齢社会に向かって、現行では制度を維持できない恐れがある。新予防給付の創設など予防を重視し、できるだけ介護給付費を抑えていきたい。

介護給付は必要不可欠であるが、財政を無視する訳にもいかない。介護保険制度に限らず財政と利用者とは表裏一体のものであり、どちらが主役ということではないと考えている。